

連盟ニュース

295

# 神奈川 8

2009.8.18



題名：『深遠なる流れ』 - A deep river - 場所：屋久島・白谷雲水峡 撮影：トリコシアキオ(<http://tory.com/>)

県連理事の補充と会員拡大・組織の活性化を	副会長 中山建生	2
定期理事会開催のお知らせ		3
大雪山での事故に関して	遭難対策部 田村	4
北海道・トムラウシ山での遭難死亡事故について	中山建生	5
第17回全国ハイキング交流集会 in 唐沢鉱泉	9 / 12 ~ 13	6
第21回全国海外登山集会のお知らせ	全国連盟	7
会山行紹介 御嶽山・ロックガーデン	横浜ハイキングクラブ	9
「登山者のための-ヤマビル シンポジウム」		11
自然保護委員会報告		11
神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定		10
県連のスケジュール / 全国会議行事予定		12



神奈川県勤労者山岳連盟  
〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3階  
発行責任者 後藤 真一  
TEL/FAX 045-434-2726 <http://www.k-rouzan.net/>

## 県連理事の補充と会員拡大・組織の活性化を

2009.7.10 副会長 中山建生

2009年3月から8月までの半期の連盟活動を見て、3月理事会では理事の補充と組織の活性化を求める意見を提出しました。すでに4ヶ月を過ぎる今も事務局長の後任が決まりません。毎月の会議の度に事務局長の不在は組織運営上の弱点をさらし、全体を統括する部署として責任が果たせないと事務局から苦情が出されています。このことで現在の理事の中から人選してと協議を進めてみましたが担当部、委員会の活動で手いっぱいとなるため引き受けられないとの回答で、ここでも進展がみられません。9月理事会では理事の補充、委員の補充が急務となります。私どもも各会の役員に直接訴える機会を持ちましたが、毎月事務局長会議に集まる人たちからまず会の役員会に話をさせていただくことを望みます。3月にも文書でのお願いをしましたが、担当理事からアルパインリーダー学校の、ハイキングリーダー学校の修了生への働きかけをお願いするものです。

現任する理事はもちろんのこと将来の神奈川県連盟の働き手を育てることについても協力がたがたお願いするものです。県連盟の理事についての活動は理事会への出席、所属委員会への出席と活動、全体で取り組む集会や企画について自らが加わることとなります。今後の連盟活動、教育の強化など多くの課題がありますが、よしやってみようという心意気を示してほしいのです。連盟活動は会の活動を含めてみんなのために役に立つというだけでなく、多くの登山者やハイカーのためにも役に立つことを求められています。勤労者山岳連盟に参加し、登山活動、会活動など時間と仕事が増すことは事実です。気楽で楽しいとはいえません。たぶん逆でしょう。雑事や連絡に時間がとられます。それでも連盟員の、多くの

登山者の要求と願いをひとつでも多く実現するために頑張ろうとしています。いいかげんで適当な仕事をしていては会員からも信頼を得られません。私たちの活動を見つめる人たちからも信頼を寄せられることはありません。世の中の歯車が狂い、仕事に生活に余裕がなくなってしまうため登山どころではないという会員もいます。政治や経済にも関心を持たなくては登山にも山岳会活動にも加われないのです。組織の強化は会員の拡大なくしては実現しません。このことも誰もが知っています。私たちが日常的に行っている登山活動を活発にするにも会に結集する会員が大勢いなくてはなりません。少人数だと活動の範囲が狭く、限られた活動となります。しばらくは続いても途絶えてしまいます。日々の集まりさえ勢いがなくなり組織としては衰退していきます。だれもこうなることを望んではいけません。しかし、自らのことしか見えないため会への結集もなくなります。あなたが勤労者山岳連盟に加入した時、きっと周りの人たちから励まされ山に登り、会に結集したと思います。その思いを今周りの人たちに伝えてほしいのです。私たちはひとり自分の登山を実現するのではなく周りの友人や家族の支えや励ましの中で楽しい登山、生き方を求めたと思います。疲れてしまった、他人の面倒などみたくないというのが本音かもしれません。でもそれではつまらないと思いませんか。ひとつ思い起こしてほしいことがあります。私は30年以上前に県連盟の総会で活動の見直しと予算の組み直しを求めて反対意見を述べました。このことがきっかけで県連盟の理事となり、人事のごたごた続きから理事長となり25年間在職しました。理事長を退任する時、何時までも私を頼りにしないで新しい県連

## 2009年度下期定期理事会 開催のお知らせ

日時 2009年9月13日(日) 13時～17時30分

受け付け開始：13時 開会：13時30分

場所 かながわ県民サポートセンター 1501会議室

横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 : 045-312-1121

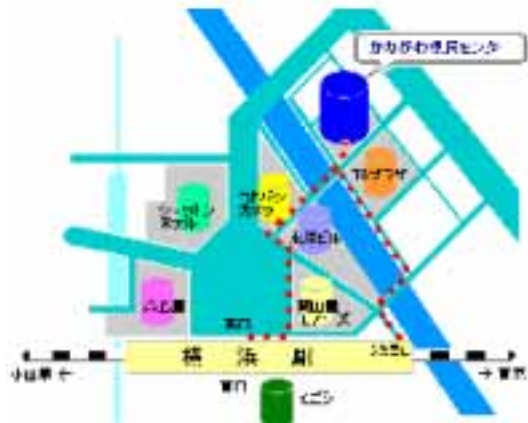
議題 2009年上期活動報告 / 2009年下期活動予定

理事補充について

事務局長、財政担当(副)、

組織担当(副)、等

その他



盟を作ってほしいと強く訴えました。その後任として後藤真一君は理事長就任の条件として「皆が私を支えてほしい、そうでなければ受けない」と言ったのです。その思いは現在の理事に限られることではありません。総会に出席した皆さんの代表が確認したことです。彼を、彼らを支える役割は連盟員であるあなたがたひとりひとりが負っています。できないことを考えるのではなく出来ることを考えてください。いくつもあるはずです。

会員拡大については9月の理事会で連盟の方針を提案したいと思います。これは勤労者山岳連盟がかがけた登山の普及と発展向上の目標につながる活動となります。面倒がらずに手を差し延べていただくようお願いをしておきます。皆さんは勤労者山岳連盟の活動を中からみえています。外からどのように見られているのか考えたことがありますか。最近、こうした話し合いをする

機会がありません。私を知る範囲では「親切で面倒見のいい山岳会で社会的な活動にも取り組んでいる」と評価をしていました。事故が多発した時は「会員教育や事故防止の対策を取っているのか」と聞かれました。「このところ目立った活動がないね」と冷やかかです。

他のスポーツ団体からの率直な感想です。日本の山岳会は外国の組織と比べると教育の質も低く、スポーツとして認識が弱いと言われます。私たちは失敗も挫折もしました。でも立ち上がり前に進もうとしています。勤労者山岳連盟がかがけた五つの基本的な柱を今日的な課題につなげて実現することが多くの仲間の信頼と連帯を呼ぶものと考えます。ひとつひとつの問題は具体的です。改めて会員拡大と組織の活性化を訴えます。そして連盟の組織の強化は次の世代に登山の楽しさや仲間との活動が充実したものとすると信じます。

## 大雪山での事故に関して

2009.7.20 遭難対策部 田村

新聞、テレビなどの報道で皆さんもご存じと思いますが、大雪山系にて10人にもおよぶ、遭難死亡事故が発生しました。うち9人は、ツアー登山での事故とのことです。すでにガイドの判断や対応方法のミスも指摘されており、ガイドおよびツアー会社の責任は免れないものと思いますが、私としては「最後に自分の命を守るのは自分自身」であることを忘れてはいけないと思います。

ツアー登山にしる、会の登山にしる同じです。自分が行くところがどのようなところであるのかわからず、人任せで行動しては、何かあったときの対処はできません。自分が行くところがどのようなところであるかを調べ、それに必要な体力、装備、知識があるかを判断し、なければそれを補ってからチャレンジする心構えが必要です。

ツアー登山も、会の登山も同じと書きましたが、会に所属する我々には大きなメリットがあります。

それは相談する仲間、教えてくれる仲間、助けてくれる仲間がいることです。そしてそういった活動をサポートする県連および県連各部のような組織もあります。これらを活用して自分の能力を高め、その上で自信を持って山に挑んでいただきたいと思います。

ただ体力的な問題、低体温症へのなりやすさなどは、いくら頑張っても年に抗えないものもあります。登山をあきらめる必要はなく、健康を維持するためにも積極的に山に行っていただきたいのですが、普段から健康管理と体調に気を配ること、無理はしないこと、早めに判断することの3点を守っていただきたいと思います。

(理事・事務局長メーリングリストに掲載された文書を田村氏の了解を得て載せました)

## 北海道・トムラウシ山での遭難死亡事故について

2009.7.22 中山建生

北海道大雪山系トムラウシ山、美瑛岳で登山者10名が死亡する事故が発生した。既に新聞テレビ等の報道から事故の直接原因は以下のように要約される。今後明らかにされるとしたらこの登山計画を企画実施したアミューズトラベル社の主催者として適切な業務をなしたのかどうか、また現場で判断決定を下したガイドの業務が危険を予測し、これを回避すべく職務を完了したのかどうかである。

主たる原因は強風と雨、そして寒気である。これについては数日前からの天候の変化を調べ登山期間中の予測をすべきである。高層天気図から風については当該山域で20から25m、16日9時には寒気が北海道の中央を通過している。こうした強風と雨に濡れることで体温が奪われ低体温症にかかれば適切な処置がなされないかぎり生命を維持することはできない。低体温症例は過去に何度も起きており、大雪山系の気象の推移からガイドとして当然に予想しておかなくてはならなかった。防寒対策について触れているが、一般的な告知では個人の経験や勝手な判断から持つものと持たないものとに分かれることも知っていたはずである。アミューズ社は事前に各自防寒具を用意せよと通知していた。それは寒気や雨による危険を認識していたからである。さらには共同装備としてのガイドが持つべきツェルトなどの用意はという当然の疑問が残る。自然の中で行う登山、当然に予想されるリスクに関して甘い認識は事前の用意を怠ったことにつながった。ガイドが現

地で天候の予測、体調不良、参加者の意志、装備の有無など必要な点検を行い、危険を回避する具体的な対策を怠った責任は重い。さて本件登山の日程には天候の悪化や参加者の体調不良などを予想した予備日が組まれていない。これもなぜだろうかと当然の疑問が生ずる。ものごとの全てが時間どおりに事が進むと安易に考えている。帰りの飛行機の日程が組まれていたのではなんとしてもこれに合わせようとする。これでは天気も参加者の体調も良く、なにとも障害になる問題が起きないという前提での組み立てである。これは主催者として余裕のない計画、無理を承知の行動を組んだと指摘されてもしかなかった。さらに参加したメンバーの体力や登山経験などから、この計画で安全な登山が出来るのかどうかガイドらが事前に検討したのだろうか。これは準備や心構え、そして装備の確認や万一の場合の避難の方法、つまり対策をメンバーにも周知徹底させたのかどうかである。ガイドは参加者に危険の回避や緊急時の対処を最小限告知し、準備をさせなくてはならない。現場で問題が起きてから指示をしても間に合わないし、それを守るほど参加者に技量と経験はない。あればこの種の企画に参加しないからである。では本件事故は気象の推移から強風と寒気の南下は予想することが出来た。これから生ずる危険を回避できなかったのかどうかである。報道からは防寒具の点検がなく、持ち物は各自の判断に任されている。また緊急時に備えたツェルトなどの用意はし

ていない。つまり多少の雨風ならいままで実施していたし事故など起きるはずがないとの気持ちであったのだろう。事前に用意や点検が十分でないことからこうした事態を予想していたとは思えない。としたら大雪山系の登山を安易に商業レベルでしか考えていなかったと疑わせる。なぜ誰もか考える中止、予定の変更をしなかったのか主催者、ガイドから肝心な点が語られていない。後日の報道から、出発する前に悪天候であること、疲労の蓄積から「中止した方がいい」とガイドに申し出ていること、出発後も「引き返した方がいい」、「救助の要請を」と訴えた参加者がいたことが判明した。今までに分かった事実からして今回の事故は目新しいものではなく、事故の規模や山域は異なっても類似の事故が起きていることを教訓としていない。まずこのことを反省すべきである。今後なすべきことは主催者、ガイドらが事前の準備や打ち合わせ、そして現地での行動判断、危険を回避するための対策、これらを具体的に明らかにし原因を究明し、明らかにすることである。本件事故の関係者等には過去の経験や思惑に縛られる事無く誠実で謙虚な態度が求められる。

トムラウシの事故を登山者らはどう受けとめたのだろうか。山岳会のなすべきこととはなんだろうか。このことを考えざるを得ない。今回の事故は登山者にも多くの警鐘を与えた。ところでこれを登山者が自らの問題として受けとめているかどうかは疑問である。その理由は以下のとおりである。問題は登山界全体に共通する会員に対する安全教育と事故防止の活動に関する内容である。今日の遭難事故の多発する原因は山岳会の社会的な役割と責任＝登山の普及と発展向上を目指す活動が著しく弱いこと、加えて登山者の安全教育が疎かにされ事故防止につながっていないことである。登山者の意識といえば事故は自分に関係ない、つまり起こるはずがないと思っているし、事故が起きてもあれは未熟な素人の事故だと決めつけ、教訓を得ようとしないうる態度が見られる。事故が多発し止むべきかきかない背景には直接的な原因だけでなくエゴ、見栄、思い込み、わがまま、規律のなさなど社会的な世相や人間関係の稀薄さが深く関わっている。こうした現状からは会がやるべきこと、なすべきことが疎かにされると事故が起きても原因の追及はあいまいにされ、多くは事故者個人の経験不足、体力不足、技術の未熟とされる。事故に事故者個人の弱点や学習、訓練などが不足しているのは事実である。これに対して会は学習や訓練をするように働きかけ登山の経験を積ませる中で力量を付けさせ、安全登山の追求をするのが会の役割である。けっして会員個人に全てを任せることではない。しかし、山岳会の現状は会員数の減少、指導者養成の不足、登山を実施する環境の悪化、子育

て等から面倒なこと、手が掛かることはやりたくないという気持ちが蔓延しており安全教育に手がでない。事故が起きても個人の問題として扱い、会全体としての反省はなく前記の安全教育への取り組みへとは進まないのが現実である。誤解のないようにしておきたいのは山岳会がなにもしていないという主張ではない。事故を未然に防ぐための教育活動が疎かにされているという点である。ガイドならこうした判断と決定に問題があったとされるが、山岳会やハイキングの会員同士なら責任の所在、範囲はどうなるのだろうか。私はこれまでに裁判になった雪崩事故の調査から、その他の事故の調査からも山岳会の指導や監督、リーダーの判断と決定に落ち度があり、指導者が自ら役割を果たしていない事や問題点と過失を明らかにした。一般的な事例からは事故の原因が会員個人の体調管理に、学習に、訓練に問題があり、リーダーの指導や指示に誤りがあったため深刻な事故につながっていた。会にもリーダーにも過失があれば当然に法的な責任を負わなくてはならない。私の考え方に反対を唱える人達もいる。「お互いに好きで登山をしているのだから会やリーダーの責任を問うのは酷で間違いだ、いちいち責任を問われているのではリーダーのなりてがない」という主張である。過去の雪崩裁判でもしきりにこうした主張がなされた。山岳会の運営や教育など事故防止と密接に関わるが、会員個人がなすべき学習とトレーニング、そして経験を積むことは山岳会活動を続けることで維持される。組織と個人の間をきちっと会員に教え、それぞれの役割と責任を明確にすることが必要不可欠である。これをあいまいにしておく事故が起きて意味のはっきりしない自己責任論で片付けられ、事故防止のための教訓は得られることはない。しかし、今日の山岳会の問題点は多くの会員が知っているにも関わらず社会的な活動や教育活動には参加せず、ただ登りたいという願望だけが先走っている。この点で遭難対策関係者や警察は事故が起きるたびに登山者としての自覚がかけられていると指摘する。この指摘は的を射ている。では登山者の自覚とはなにかを考えてみよう。

(続きは9月号に掲載します。編集部)





《連盟ハイキングクラブの皆さん 参加者を募って参加しましょう》

## 第17回全国ハイキング交流集会in唐沢鉱泉

主催 日本勤労者山岳連盟・ハイキング委員会  
 主管 日本勤労者山岳連盟・ハイキング委員会  
 日時 2009年9月12日(土) 15:00～  
 13日(日) 12:00(一泊二日)

場所 八ヶ岳・唐沢鉱泉 天狗岳の登山口  
 〒391-0211 長野県茅野市湖東1323  
 0266-76-2525  
 fax0266-76-6071

茅野駅東口より送迎バスで40分 駐車場有り

目的 全国各地のハイキング仲間が集い、活動や  
 経験を交流し多様なハイキング要求の実現  
 と可能性を追求する。

メインテーマ「ハイキング文化を次代に引  
 き継ぐために今何をなすべきか」

参加費 12000円(宿泊費、諸経費)

参加費振込先 郵便振替口座

口座番号 00140-5-563328

加入者名 労山行事事計係  
 参加定員 100名(スタッフ含む)定員になり  
 次第締めきりとします。

内容 基調報告・経験発表  
 分科会 第1分科会 『会運営：後継者育  
 成と会員拡大』  
 第2分科会 『事故防止と会員教育』

参加申込み・送付先及び問い合わせ先  
 用紙に必要事項を記入の上、お申込み下さい。

〒162-0814 東京都新宿区新小川町5番24号

日本勤労者山岳連盟 ハイキング委員会気付

Fax 03-3235-4324

E-mail jwaf@jwaf.jp

問い合わせ先 090-5773-4652(石川)

090-6172-5065(伊藤)

FAX兼用 048-644-7923(伊藤自宅)

## 第17回全国ハイキング交流集会参加申込書

所属団体名	氏名	住所

連絡先(電話)	会での役職	年間山行回数	申込日
			月 日

参加費12000円×人数分を添えて申し込みます。

参加費振込先 郵便振替口座

口座番号 00140-5-563328

加入者名 労山行事事計係

通信欄に「第17回ハイキング交流集会」参加費と団体名、参加者名を必ず明記して下さい。

唐沢鉱泉に交流集会の前泊、後泊でも労山会員証を提示すれば1万円で泊られます。

## 第21回 全国海外登山集会のお知らせ

### 全国連盟・海外委員会

第21回・海外登山集会を下記により開催します。  
今年、千葉県連盟が総力をあげて、歓迎の準備を進めています。

会場は、JR総武線・新検見川駅から徒歩10分、緑に囲まれた東京大学の検見川総合運動場です。

遠方からの参加の皆様には、羽田空港・東京駅からも大変便利な会場です。

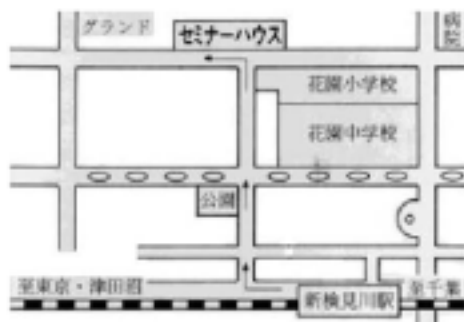
大勢の皆様の参加を心よりお待ちしております。



マナスル 8163m 近藤和美撮影

#### 記

- 1、開催日 2009年11月28日(土)13時より29日(日)12時まで
- 2、会場 東京大学 検見川総合運動場
- 3、記念講演 大蔵 喜福氏 (マッキンリーでの気象観測・環境問題などで活躍中)
- 4、参加費 宿泊参加 8,000円(懇親会込) 1日参加 1,000円(資料代のみ)
- 5、アクセス JR総武線 新検見川駅下車 徒歩10分



- ① 東京駅(JR総武線快速)——津田沼・乗換え(JR総武線千葉行)——新検見川駅下車
- ② 羽田空港(京急本線)——品川・乗換え(JR総武線快速)——津田沼・乗換え——  
(JR総武線千葉行)——新検見川駅下車

- ◎ 参加申込み (所属会・参加者名・電話番号・Eメールアドレスを記入願います)

郵便：162-0814

東京都新宿区新小川町5-24 日本勤労者山岳連盟・海外委員会

FAX：03-3235-4324 Eメール：[jwaf@jwaf.jp](mailto:jwaf@jwaf.jp)

問合わせ先：広木 国昭[090-8316-2020] Eメール：[danphiro@xpost.plala.or.jp](mailto:danphiro@xpost.plala.or.jp)

## 第 21 回全国海外登山集会参加申込書

参加者氏名 : \_\_\_\_\_ 男性 女性  
 参加者所属会 : 地方連盟名 \_\_\_\_\_ 所属会名 \_\_\_\_\_  
 参加者住所 : 〒 \_\_\_\_\_  
 : \_\_\_\_\_  
 電話番号 : \_\_\_\_\_  
 Eメール : \_\_\_\_\_

**参加種別** 下記の番号のいずれかに○をしてください。

- ① 1泊2日 (8,000円) 宿泊、食事、交流会費、資料代込み  
 ② 宿泊なしでの参加、両日または1日だけ参加 (1,000円) 資料代  
 ③ 上記の宿泊なしで交流会は参加 (5,000円) 交流会費、資料代  
 ④ 28日の交流会のみ参加 (4,000円) 交流会費

☆申込み締め切り 11月 5日(木)

**参加申込み先・方法** この参加申込書にて  
 下記に郵便・FAX・Eメールで申し込み下さい。  
 〒162-8814  
 東京都新宿区新小川町5-24  
 日本勤労者山岳連盟 海外委員会気付  
 FAX 03-3235-4324  
 Eメール [jwaf@jwaf.jp](mailto:jwaf@jwaf.jp)

**参加費振込み先** 郵便振替口座  
 口座番号 00140-5-563328  
 加入者名 労山行事会計係  
 通信欄に「第21回海外登山集会」・所属団体名と  
 参加者名を必ず記入願います。

海外登山集会へのご意見、ご希望をお願いします。



## 各会の山行紹介

## 御嶽山・ロックガーデン

横浜ハイキングクラブ

期日 平成21年6月14日

参加者 17名(男性3・女性14名)

コース 御嶽山頂駅 御嶽神社 七代の滝 ロックガーデン 綾広の滝 大塚山 下山口 古里駅

報告 梅雨時で不安定な気象条件。前日の予報と睨めっこで決定。当日は曇天ながら時々陽射しもありまあまあの天気。

御岳駅からバスとケーブルを乗り継ぎ山頂駅へ、自主ストレッチの後舗装された参道を、途中の土産物屋を横目に見ながら御嶽神社へ。今日の山行の無事を祈願し七代の滝へ、休憩後甘い香りを放つ小あじさいを見ながら急な鉄梯子を登り天狗岩に出る。

ここからロックガーデンに入り苔むした岩、沢を流れる水の音を聞きながらロックガーデンを歩く。途中昼食を取り綾広の滝を経て周回し元来た道に出てから大塚山へ。

ここも緑に覆われ是非いっばくと誘惑され休憩したくなる場所です。ここからは下りに入り山道の両側に小あじさいが沢山咲いており甘い香りを放っておりボンボリの様にほんわかとし、優しい色合いが心を癒してくれる。

下山口から古里駅までは10分位。ゆっくり歩いても5時間位の山行でトイレも随所に有り行きやすい山です。ロックガーデンの名の通り岩がゴツゴツしていますが歩き易く岩と木々が深く苔むした道は心が癒されます。4月は花、秋は紅葉と時にはゆっくり山行もリフレッシュできて良いと思います。是非歩いてみてください。



# 神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定

## 川崎勤労者山岳会

報告：小池 秀子 計42名（男28 女14）平均 歳

7/3-5 三ツ峠（4）	7/12 南秋川・軍刀利沢（11）	7/19-20 小川山（3）
7/4-5 小川山（3）	7/18 小川谷廊下（4）	7/19-24 裏銀座
7/5 鷹ノ巣（4）	7/18 上州武尊（1）	7/25-26 甲府幕岩（4）
7/11 奥多摩・つづら岩（4）	7/19-20 三ツ峠（5）	

## 川崎ハイキングクラブ

報告：二瓶 誠 計101名（男50 女51）平均62歳

6/18-21 鳳凰三山/南アルプス(9)	7/5-6 尾瀬ヶ原/尾瀬(4)	8/21-22 富士山
6/19-21 鎌ヶ岳/鈴鹿山脈(5)	7/11 三ノ塔/丹沢(3)	8/23 大蔵高丸/中央沿線
6/20 弘法山/丹沢(9)	7/12 勘七の沢/丹沢(5)	8/29-30 笹子雁ヶ腹摺山/中央沿線
6/20 塔の峰/箱根(8)	7/12 蕎麦粒山/奥多摩(15)	8/29-30 至仏山/尾瀬
6/28 第33回総会(75)	7/12 鍋割・塔ノ岳/丹沢(4)	9/13 矢平山/山梨
7/3-5 羊蹄山/北海道(16)	予定	
7/4-5 雲取山/奥秩父(4)	8/2 滝山丘陵/八王子 例会山行	
7/5 三頭山/奥多摩 例会山行(15)	8/15-17 鳳凰三山/南アルプス	

## アルパインクラブ横浜

報告 = 岸 計38名（男23：女15）平均 歳

7/2 屏風岩山(1)	7/11-12 笛吹川東沢釜ノ 沢東俣(2)	(2)	7/24 富士山(1)
7/4 一ノ倉沢 烏帽子沢 奥壁 南稜(2)	7/11-12 湯川・甲府幕岩 (1+1)	7/19 小川山(1+4)	7/25 玄倉川小川谷廊下 (2)
7/4 有笠山(2)	7/17 日和田山(1+1)	7/20 塔ノ岳(1)	7/25-26 燕岳(1+3)
7/4 富士山(1)	7/18 立山(1)	7/20 笠間(1)	7/25-26 八ヶ岳(1)
7/4 白毛門沢(2)	7/18 奥多摩天皇岩(2)	7/20 塔ノ岳(1)	7/26 葛葉川本谷(3)
7/5 塔ノ岳(1)	7/18-19 穂高岳(新穂～ 滝谷避難小屋)(2)	7/20 高尾山(1)	7/26 甲府幕岩(1+1)
7/5 白毛門沢(7)	7/18-20 小川山(1+3)	7/20 日和田山(4)	7/27 源次郎沢(2)
7/5-6 潤沢(1+1)	7/18-20 常念岳・蝶ヶ岳	7/20-22 北岳パットレス (中退)(1+1)	7/29 塔ノ岳(1+1)
7/7-10 蝶ヶ岳～燕岳(1)	7/18-20 常念岳・蝶ヶ岳	7/23-25 越百山・空木岳 (1)	7/31 東沢本棚沢(1+1)
7/11-12 八ヶ岳(1)			

## 横浜ハイキングクラブ

報告 = 池上準子 計57名（男20：女37）平均60歳

7/2-3 至仏山・鳩待峠- 竜宮(10)	目・焼岳(8)	8/13-15 甲斐駒・仙丈岳 ～霞沢
7/5 三国峠～三国山(13)	7/26-28 千畳敷～宝剣岳 ～木曾駒	8/20 室内例会
7/14 室内例会(46)	8/1-2 苗場山 中止	8/23 箱根・西岸歩道
7/21-23 秋田駒ヶ岳八合	8/8 富士山5合目	9/10 室内例会
		9/13-15 霞沢岳・上高地

## 横浜こぶしの会

報告=田辺美由紀 計28名（男19人 女9人）平均52歳

7/4 石垣山(6)	7/17-19 大峰 大台 伊吹 (1)	8/1 源次郎沢(5)	8/30 焼岳(2)
7/10-12 白毛門山(5)	7/25-26 富士山(1)	8/7-10 羅臼・斜里他(5)	9/ 朝日連邦
7/17-19 小川山(3)	7/29-31 常念燕 中止	8/7-10 蝶・常念 他	9/18-21 飯豊
7/17-19 鳥海山(4)	8/1 天城山(4)	8/20-22 針ノ木岳(2)	
7/17-19 薬師中止		8/21-23 小川山	

## 藤沢山の会

報告=中河原昭夫 計82名（男39：女43）平均62歳

7/1 運営委員会 (6)	7/14 塔ノ岳(2)	7/22 例会	8/6-17 インド・スーダー 谷
7/1-3 火打山(4)	7/12-15 十勝岳(3)	7/20-8/20 ペルー・ブラ ンカ山群(3)	8/11 機関誌印刷
7/1-10 北欧(2)	7/16 鼻曲山(3)	7/24-27 西穂～前穂(5)	8/12 例会
7/7 機関誌印刷	7/16-19 穂高(5)	7/30-8/1 北岳(11)	8/13-16 戸隠山・高妻山 (夏山 合宿)
7/3-8 トムラウシ岳(5)	7/19 天園(3)	他5山行	8/26 例会
7/8 例会	7/17-19 穂高(4)	8/3-6 奥穂高岳	8/29-30 大雲取谷
7/11 広沢寺(6)	7/19 富士・お中道(5)	8/4-5 森吉山	
7/11-12 釜の沢(3)	7/18-20 早池峰(4)	8/5 運営委員会	
7/12 大倉尾根(教育トレ)			

**みずなら山の会**

報告:阿部ひろみ

計31名(男21 女10) 平均 歳

7/11 幕岩(2)	7/19-20 小川山(3)	8/1 大倉~丹沢山(1)	8/8-11 飯豊山(1+1)
7/11 西丹沢 大棚沢(6)	7/18-20 光岳(4)	8/1 大倉~塔(1)	8/8-10 双六谷 悪天の 為途中撤退(1+3)
7/11 セドの沢左俣(1+1)	7/18-20 和名倉沢(1+3)	8/1 ヌク沢(1+1)	8/10-15 表銀座-西穂高 (4)
7/12 葛葉沢(10+2)	7/19-20 諏訪山(3)	8/2 ヤビツ峠-三の塔(1)	8/12-16 大井川東俣~農 鳥~奈良田(1+1)
7/12 リーダー学校 水 無川(2)	7/25 広沢寺(13+1)	8/2 大倉~丹沢山(1)	8/12-16 剣北方稜線(1+3)
7/15 奥多摩 逆川(2)	7/26 富士見小屋~蛭が 岳(6)	8/2-4 甲斐駒~鋸岳(4)	8/13-16 剣八ツ峰主稜 ~赤石岳(5)
7/18 大倉~塔(1)	7/26 大倉~塔(1)	7/31-8/5 黒部五郎~高 天原~雲ノ平(3)	8/14-15 富士山(1+3)
7/18-20 甲斐駒~鋸岳 悪天の為駒津峰で撤退 (4)	7/26 大倉~金冷やし(1)	8/8 ヤビツ峠-三の塔(1)	8/14-16 小川山(1+多数)
7/17-20 白馬~唐松岳 悪天の為八ヶ岳(3+1)	7/31-8/2 リーダー学校 小川山(2)	8/8 大倉~丹沢山(1)	
	7/31-8/3 白山・荒島岳 (1+2)	8/8 磐梯山(1+1)	
		8/8-9 小川山(3)	
		8/9 官ノ倉山(2)	

**カモの会**

報告:森谷準一

計64名(男42:女22) 平均 歳

7/3-5 鳥海山(6)	ソソ 雌阿寒 雄阿寒(2)	ギ沢下降-ナルミズ沢 (3)	その他、個人山行記録多 数あります。 ヤマレコでご確認下さい。 <a href="http://www.yamareco.com/">http://www.yamareco.com/</a>
7/4-5 白馬岳(3)	7/11-12 蝶ヶ岳-常念岳 (4)	7/20 雨飾山(9)	
7/5 三ツ峠(2)	7/12 南秋川/軍刀利沢(4)	7/24-27 雲ノ平(4)	
7/5 谷川岳西黒尾根(8)	7/15 同角沢(1+1)	7/25-26 ヌク沢(1+1)	
7/7-8 西丹沢縦走(1+1)	7/18 御嶽山(9)	7/26 水無川本谷~沖ノ 源次郎(6)	
7/8-11 大雪山(トムラ ウシ~旭岳)(1+1)	7/18-20 甲府幕岩(1+1)	7/27-28 玄倉川周辺(1+1)	
7/11-16 斜里 羅臼 ニペ	7/19-20 東黒沢-ウツボ		

**やま+**

報告:栗田 彰 計11名(男8:女3) 平均50歳

7/6-9 大雪山縦走(2)	7/22 例会(10)	8/8-13 東北・八甲田山、岩木山
7/8 例会(8)	8/1-2 奥秩父・釜ノ沢東俣	8/22-23 富士山
7/19 奥多摩・逆川(5)	8/5 例会	
7/24-26 中部・白山(10)	8/8-9 越後・平ガ岳	

**「登山者のための-ヤマビル シンポジウム」 参加者募集**

&lt;主催&gt;丹沢大山ボランティアネットワーク(丹沢ボラネット)

&lt;後援&gt;丹沢大山自然再生委員会

日 時: 8月30日(日) 10:00~12:30

会 場: 県自然環境保全センター新館レクチャールーム &lt;本厚木駅 バス30分&gt;

参加費: 無料

定 員: 60名(申込み先着順)

申込み: ボラネット事務局 保全センター自然保護課 FAX 046-248-0737

ないしは シンボ係 E-mail: m-okutu@22.catv-yokohama.ne.jp

プログラム(タイトルは仮)

- |                             |                     |             |
|-----------------------------|---------------------|-------------|
| 1. ヤマビル・その生態について            | : 岩見光一(県自然環境保全センター) | 10:00~11:00 |
| 2. 事例報告: 丹沢に於けるヤマビルの実状      |                     | 11:00~11:45 |
| 1) 県ヤマビル対策協同研究から            | : ヤマビル研究推進会議        |             |
| 2) 丹沢を歩いて・東&今の状況            | : 神奈川県勤労者山岳連盟       |             |
| 3) 丹沢を歩いて・北&少し以前の状況         | : 北丹沢山岳センター         |             |
| 3. 意見交換                     |                     | 11:45~12:30 |
| 各自昼食後、希望者は、現地七沢周辺の見学会を開催します |                     | 13:15~15:00 |

**自然保護委員会報告 2009年7月27日 19:30~21:30**

出席者 地平線の会(磯部)、横浜HC(関根、伊藤)、横浜こぶしの会(三上)、藤沢山の会(萩原)

\* クリーンハイク報告集について確認、修正作業

8月24日実行委員会にて配布予定

\* 8月30日(日)「登山者のための-ヤマビル シンポジウム」について

発表のためヒルの状況を報告してほしい。

各会にヤマビル目撃、被害、対策情報を出してもらいたい。

次回自然保護委員会は8月24日(月) 19:30より県連事務所にて行います。

## 県連のスケジュール

8月			9月			10月		
1	土		1	火	常任理事会	1	木	遭対部会
2	日		2	水	登山リーダ養成学校机上講習	2	金	
3	月	常任理事会	3	木		3	土	
4	火		4	金		4	日	
5	水	登山リーダ養成学校机上講習	5	土	救助隊セルフレスキュー 関東ブロック役員交流会	5	月	常任理事会
6	木		6	日	救助隊セルフレスキュー 関東ブロック役員交流会	6	火	
7	金		7	月	遭対部会/連盟news印刷	7	水	登山リーダ養成学校机上講習
8	土		8	火	事務局長会議/連盟news発行	8	木	
9	日	H Cリーダ学校実技講習	9	水		9	金	
10	月		10	木		10	土	
11	火		11	金		11	日	
12	水		12	土	登山リーダ養成学校実技講習	12	月	
13	木		13	日	<b>定期理事会</b> 登山リーダ養成学校実技講習	13	火	事務局長会議/連盟news発行
14	金		14	月		14	水	
15	土		15	火	全国理事会/救助隊運営会	15	木	H Cリーダ学校机上講習
16	日		16	水		16	金	
17	月	ビーコン講習会	17	木	H Cリーダ学校机上講習	17	土	
18	火	事務局長会議/連盟news発行 全国理事会/救助隊運営会	18	金		18	日	H Cリーダ学校実技講習
19	水		19	土		19	月	
20	木	事務局部会	20	日		20	火	全国理事会
21	金		21	月		21	水	
22	土	登山リーダ養成学校実技講習	22	火		22	木	事務局部会
23	日	登山リーダ養成学校実技講習	23	水		23	金	
24	月	自然保護委員会	24	木	事務局部会	24	土	
25	火	ビーコン講習会	25	金		25	日	
26	水		26	土	H Cリーダ学校実技講習	26	月	自然保護委員会
27	木		27	日	H Cリーダ学校実技講習	27	火	
28	金		28	月	自然保護委員会	28	水	
29	土		29	火		29	木	
30	日	ヤマビルシンポジウム	30	水		30	金	
31	月					31	土	

### 2009年度以降の全国的な規模の集会・会議予定

女性のためのヒマラヤ学校

6月23日～10月27日 6コース  
(インドヒマラヤ、ヒマチャール州)

第17回全国ハイキング交流集会  
M F A インストラクター養成講座

9月12日～13日 八ヶ岳・唐沢鉱泉  
秋(未定)

第9回全国救助隊交流集会  
全国自然保護担当者会議

10月31日～11月1日(富山県・登山研修所)  
11月14日～15日(長野・信濃大町)

第21回全国海外登山集会

11月28・29日(千葉県検見川総合運動場)

第11回東日本女性登山交流集会

2010年1月23日～24日(東京・高尾の森)

第29回全国総会

2010年2月20日～21日 東京・晴海GH